

備 前 市 事 務 事 業 評 価 シ ー ト

事業の概要			
事業開始年度	昭和52年～		
総合計画	大項目	基本構想	04 土台となる政策「安全・安心」
	中項目	基本計画	06 誰もがいつまでも安心して暮らせるまち
	小項目	施策	23 生涯を通じた健康づくりの推進
事務事業名	02	マザースクール事業	
		根拠法令・例規等	
		問 担当課(室)	保健課
		答 職・氏名	健康係長・江見清人
		先 電 話	64-1820
		このシート作成に要した時間	時間

事業の目的	
対象(誰・何に対して)	主に言語及び情緒の発達が気になる就学前の幼児とその保護者
目的(何のために)	子どもの発達と子育ての方向性を保護者と一緒に考え、育児不安の軽減と育児力を高めることを目的に実施する。
事業の意図する成果(どのような状態にしたいのか)	子どもの発達が促進され、保護者が子どもの成長発達を受け入れ、適切な養育につながる。

事業の実績			
目的を達成するために実施した事業	細事業名	事業の説明	優先度
	マザースクール事業	主に言語発達等が気になる就学前の幼児とその保護者に対し、子どもの発達と子育ての方向性を一緒に考え、育児不安の軽減と育児力を高めることを目的に週2回通所による集団遊戯訓練、個別訓練、個別相談、週1回開放日(月1回は交流会)を実施する。	○

事業費等	単位	平成23年度実績	平成24年度実績	平成25年度実績
事業費	千円	2,643	2,634	2,596
必要人員	人	0.20人	1.432	0.28人
費用	千円	4,075	4,504	7,820
国庫支出金		1,321	1,317	1,317
受益者負担				
繰入金				
財源				
市債				
その他()				
一般財源		2,754	3,187	6,503
受益者負担比率	%	-	-	-

結果指標	単位	平成23年度実績	平成24年度実績	平成25年度実績
結果指標名	説明	訓練日・開放日・交流会に参加した幼児の延人数		
結果指標量	人	759	967	921
対前年比	%	-	127.4%	95.2%
活動コスト	円	4,075,000	4,504,000	7,820,000
単位当たりコスト	円	5,369	4,658	8,491

事業の成果 (平成25年度事業)						
成果指標名	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度目標値	
保護者の不安や悩みが軽減された割合	目標値 (A)	100	100	100	100	100
	実績値 (B)	100	94.1	100	到達目標値	
	達成率 (B/A)	100.00%	94.10%	100.00%	100	
成果指標設定の考え方・式や説明						
年度末にマザースクール参加者にアンケートをとり、マザースクールに通所したことによる母親の変化として「子どもに対してイライラが少なくなった、不安が軽くなった、前向きに育児に取り組めるようになった」などの良い割合を計上。						

事務事業の評価		
妥当性の評価	該当する項目を□から■へ < ■ ←「コピー」して「貼り付け」してください > <input type="checkbox"/> 市が実施するよう法令で義務づけられている <input type="checkbox"/> 法令で義務づけられていないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす <input type="checkbox"/> 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない <input type="checkbox"/> 事業の内容が一部の受益者に偏っている <input type="checkbox"/> 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている <input type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化してきている <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている <input type="checkbox"/> 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある <input type="checkbox"/> 市民・団体等から要望・要請が強い	妥当性評価 ABCDE 高や普や低 いや通やい 高 低 高 低 B
効率性の評価	<input type="checkbox"/> 単位当たりコストは前年度と比較して改善している <input type="checkbox"/> 実施方法(派遣・委託含)を見直すことでコストを下げる余地がある <input type="checkbox"/> 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある <input type="checkbox"/> コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい <input type="checkbox"/> 受益者負担率は適正である <input type="checkbox"/> 受益者負担率を見直す余地がある <input type="checkbox"/> サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない <input type="checkbox"/> 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある <input type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている	効率性評価 ABCDE 高や普や低 いや通やい 高 低 高 低 B
有効性の評価	<input type="checkbox"/> 成果指標の設定は適切である <input type="checkbox"/> 成果指標の到達目標値は達成できそうである <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は前年度と比較して向上している <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は80%未満となっている <input type="checkbox"/> 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない <input type="checkbox"/> 法定事務・内部管理事務 であり成果は求めにくい <input type="checkbox"/> 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している <input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している	有効性評価 ABCDE 高や普や低 いや通やい 高 低 高 低 B

進行年度(H26年度)の改革改善内容							
状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
説明	マザースクールと保育園障害児部会保育士との交流会は引き続き継続する。言語療法士と保育士・保健師が協力して児の発達に応じた集団・個別訓練を実施する。必要者には療育機関につなげる。						

総合評価	
身近な場所で継続した通所により、子どもの成長発達を促し育児支援を行うことで保護者が子どもの成長発達を受け入れ、子育ての方向性を見出す力を身につけることができ、必要な事業である。母子を継続して支援していくためにもマザースクールや保育園の役割を関係者が共通認識でき、支援者のスキルアップや共通した支援の在り方を考えていけるよう事業の実施を通して考えていく。	総合評価 ABCDE 高や普や低 いや通やい 高 低 高 低 B

平成27年度の方向性・取組目標							
方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
取組目標	マザースクール事業の役割を関係者間で共通認識し、連携して母子の支援を行っていくよう事業の継続と充実にむけた取り組みを推進していく。						

事業の意図する成果とつながる成果指標を設定

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

事業の目的やその数値目標に留意しな